

「やってみたい!」を育む ～体育の授業と遊び場の充実～

なかしべつりがし
北海道中標津町立中標津東小学校

School Data

全校児童数	528名 (男子276名 女子252名)
全クラス数	26クラス (内特別支援学級10クラス)
教職員数	50名(内体育専科1名)
地域のスポーツ指導者の活用(年間延べ人数)	0名

取組時の課題と目的

Plan

1 取組時の課題

平成27年度の本調査の結果において、本校の児童は全国と比較して握力と投力以外の項目が大幅に低く、体力・運動能力に偏りが見られた。加えて、体力合計点の総合評価でもD・Eの児童の割合が高い状況であった。

また、「運動が好き」という児童の割合があまり高くなく、全校児童が遊べる広い敷地があるものの外で遊ぶ児童の姿があまり見られないなど、日常的に運動や遊びをする児童とそうでない児童の二極化が見られた。

2 取組の目的

- ①全児童が運動を楽しみながら体力・運動能力をバランスよく身に付け、体力の向上を図るために、全教職員が体育の授業の工夫・改善を行う。
- ②児童が運動などへの興味・関心を高め、日常的に体を動かし、楽しみながら多様な動きを身に付けることができるように遊び場などの充実を図る。

取組の内容

Do

1 全教職員による体育の授業の工夫・改善

(1) 体育授業プランの作成

全教職員による授業の改善を推進するため、児童及び教員を対象とした体育授業アンケートを実施・分析し、「体育授業プラン」を作成した。体育授業プランでは、年度の目標、目標の達成に向けた方策、単元や1単位時間の授業の流れ及び評価方法などを示し、全教職員による共通のもと全学年・全学級で授業を改善する取組を実践している。

(2) 各運動領域の内容の定着に資する取組

児童が各運動領域で目標とする力を身に付けることができるように、音楽に合わせて体を動かす「準備運動サーキット」を考案し、授業の導入において実施している。また、児童が興味・関心を高め、楽しみながら取り組めるよう、運動領域ごとに取組の内容や場を変更するなどの工夫を行っている。

(3) 中標津東小授業スタンダードの実践

児童が「分かった・できた」「またやりたい」と思えるように、「既習内容を生かして頑張ればできそう

な目標の提示」、「児童一人一人が目標の達成に向けて主体的・協働的に活動できる場や時間の設定」、「児童が自分の成長を実感できる振り返り活動」を基本とした授業を実践している。

2 ひと手間を加えた遊び場などの充実

(1) 敷地の環境を生かした遊び場（空間）の設定

休み時間などにおいて、児童が外で気軽に体を動かして楽しみながら多様な動きを身に付けることができよう、敷地内の環境資源を生かして遊び場（空間）を整備した。大きな木にペットボトルを階段状にぶら下げた「ジャンプの木」、つつじの木の間に走り抜けてタイムを競う「ジグザグつつじ」、左右の紐につるされたベルを反復移動しながら鳴らしていく「ベルタッチ」などがある。

また、登下校や休み時間などに児童が自分で遊び方を考えて取り組むことができるよう、玄関前の広い路面にケンパーなどができる丸い風船や、走り跳び越しなどができるワニの口の絵を教員と児童と一緒に描いた。

(2) 自主的な運動を促す時間と空間の設定

児童が家庭などにおいて手軽な運動に取り組むことができるよう、年間を通して短なわ跳びの取組を実施している。跳ぶ回数や技など自身の目標に合わせて児童が主体的に取り組むことができるよう、週に1日「なわ跳びの日」を設定して体育館を開放したり、体育館のステージをなわ跳びチャレンジコーナーとして毎日活用できるようにしたりするなど、運動の機会（時間）と場（空間）を設定した。

→ 工夫したこと

調査などの結果から課題を明確にするとともに課題の解決に向けて分析を行い、校内外の人的・物的資源などの強みを生かして授業の改善や環境の整備などに取り組んだ。また、取組のマンネリ化を防ぐため、授業では1単位時間の評価を踏まえて学習の内容の工夫を図った。遊び場などの整備も含め、授業以外の取組では取組の期間を短く設定し、児童が様々な運動などを経験できるようにした。

取組成果の評価

Check

平成27年度と平成29年度の結果の比較より

- ①体力・運動能力のバランスについては、握力や投力以外の項目で結果が上昇するなど改善の傾向が見られた。体力合計点の総合評価 (A + B) - (D + E) の値は、男子が - 45.1% から 14.8%、女子が - 66.5% から 10.8% に増加した。
- ②「運動が好き」と回答した児童の割合は、男子が 66.7% から 71.4%、女子が 53.1% から 64.7% に増加した。

- ②運動時間の少ない児童が、自分に合った運動を見つけて日常的に実践できるよう、学校での取組を全教職員で検討し、実践していく必要がある。

今後の課題 **Action**

- ①体育の授業に対して苦手意識をもっている児童が「もっとやりたい」と思えるよう、引き続き体育の授業の充実を図る必要がある。

体力の向上の取組がもたらす波及効果

学級や異学年の仲間との取組を通して児童たちが他者を認め、互いに高め合うようになるなど、学級集団づくりで効果が見られる。また、体育の授業や休み時間などの遊びで「できた」という経験を積み重ねた児童は、他の教科などでも意欲をもって粘り強く取り組むようになってきている。

Do-1 全教職員による体育の授業の工夫・改善

【今年度の目標】

- 「体育・運動が好きではない」と回答した児童を満足群へ
- 「分かる」、「できる」から「楽しい」と感じる体育授業へ
- 「場の工夫」、「思考・判断」の不満足群の割合を10%未満へ

【目標の達成に向けた方策】

- 「体育・運動が好き」な児童を育てるために
 - 認め合う雰囲気づくり
 - 運動量の確保
- 「分かる」、「できる」から「楽しい」を実感させるために
 - 各領域の目標の達成につながる易しく楽しい運動
 - 「分かった、少し頑張ればできそうだ!」と感じる課題
- 「考える」、「選んで決める」、「伝える」ことができるように
 - 発見した課題、改善のポイント、練習方法の選択決定
 - 役割の選択・決定、解決方法の理由の伝達 など

6年間で身に付けさせたい技能

なわ跳び	スケート
3分間連続跳び	500m
低～200回	低～400m 2分
中～300回	中～2分30秒
高～400回	高～2分

【中標津東小学校 体育授業プラン】

児童との約束 三つの「あ」

あんぜん あきらめない あせをかか

【1単位時間の授業の流れ】

- 集合 男女各2列
- 準備運動 音楽に合わせた「サーキット」「なわ跳び」
- 見通し 目当ての提示、活動の場の説明
- 準備 3分間音楽に合わせて用具などを準備
- 活動① 目当ての達成に向けた活動(全体指導中心)
- 交流 目当ての達成に向けた気付きの交流
- 活動② 目当ての達成に向けた活動(選択)
- 片付け 3分間音楽に合わせて用具などを片付け
- まとめ 振り返り、気付きの発表

Do-2 ひと手間を加えた遊び場などの充実

《3分間なわ跳びチャレンジ》

- ◆週に1回「なわ跳びの日」を設定
- ◆なわ跳びチャレンジコーナーの設置

ひと手間 毎月、学年別の記録を掲示

《東っ子サーキット場》

- ◆高さや記録など、学年別のレベルを設定することで意欲を喚起

ひと手間 ・ペットボトルの高さ ・タッチで音が出るベル

《玄関前のワニの口》

- ◆毎日子供が通る場所にイラスト

ひと手間 学年に応じて設定した口の幅